

那須正幹作品における物語のクロージングについて



くぼ ひびき



この論考では那須正幹作品のエンディングの、クロージングの様相について技法的に考察したい。まず用語について解説したのち、那須作品に触れる。

1 クロージングとは

一般に物語のエンディングとは作品の終盤のことを指す。終盤という括りは実にあやふやなものだ。明確な分量というものはない。強いて言うなら物語の構造の後半に属する。その構造を端的にあらわすと、

- ① オープニング
- ② 事件の始まり
- ③ 事件の展開
- ④ 事件の解決（クライマックス）
- ⑤ クロージング

となるが（事件とは大事件のことではない。物語の核となるイベントのことである）、エンディングに該当するのは

後述するように④のさらに後半と⑤である。

このうち①は物語上必須ではない。とくに昨今は読者を早い段階で物語世界に誘うため、最初から事件を起こさせる。ここで言うオープニングとは事件が始まるまでの時間を指し、物語世界や主要人物についての予備知識を、演出によって読者に知らしめる（プロローグとして独立させることもある）。シリーズ化しているドラマなどは、物語内容もさることながら登場人物への愛着を醸成するため、その日常的な生活感を出すオープニングが利用される。これがあるからこそ、続くできごとが際立つのだ。もちろん技術的にはオープニングにおいて事件に関連するなにごとかを出すことはある。そうすることで主要な事件とオープニングとを乖離させないでかける。

⑤のクロージングに先立ってエンディングがあるが、先述したように、終盤という括りだけで考えるとあやふやに